

# 復興6年！東日本大震災被災地を訪ねる

・・・気仙沼・陸前高田・大船渡・・・

福田 利雄（会員 No11）

東日本大震災（地震、津波）による福島原発事故から6年、いまだに続く風評被害、避難者へのいじめ等について話し合う機会があり、その中で本会長谷川武さんが小中高と過ごされた故郷が津波の被害を受けた事を知った。津波により親戚の方が犠牲に、同級生の方の家が流されてしまった、通学に利用していた駅舎が流されてしまった・・・津波の凄まじい被害の話を聞き、もし機会があれば被災地をこの目で見て、災害に合わせた方々の生の声を聞きたいね・・・と話し合っていたのである。2017年6月7日～6月9日(2泊3日)の予定で、宮城県気仙沼、岩手県陸前高田と大船渡の被災地を訪ねる旅が企画された。先輩であり友人である長谷川武さん、早瀬武雄さんと小生の三人の旅である。

## 宮城県気仙沼

東北新幹線一関駅から駅レンタカーを利用し、気仙沼漁港を目指した。市内に入り気付くのは工事の多さだ。いまなお随所で「かさ上げ」工事が行われており、空き地も目立っていた。漁港関連の施設は、ほぼすべてが津波で破壊されたと聞いた。岸壁、魚市場等は新しく整備されていたが復興の道はまだまだ遠いと感じた。「気仙沼お魚いちば」で気仙沼名物のランチを食し、ふかひれスープ5袋お土産に買い求めた。



施設は、ほぼすべてが津波で破壊されたと聞いた。岸壁、魚市場等は新しく整備されていたが復興の道はまだまだ遠いと感じた。「気仙沼お魚いちば」で気仙沼名物のランチを食し、ふかひれスープ5袋お土産に買い求めた。

## 三陸復興国立公園: 唐桑半島

気仙沼から陸前高田市に向かう途中、太平洋に大きく突き出した唐桑半島に寄り、素晴らしい水平線とリアス海岸と断崖絶壁の迫力のある景色を楽しんだ。



三陸海岸一帯を震災からの復興および被害の伝承を目的として、2013年に公園の名称が陸中海岸国立公園から三陸復興国立公園に変更された。

### 唐桑半島

上: 巨釜半造  
(おおがまはんぞう)  
下: 大理石海岸



## 陸前高田「奇跡の一本松」

気仙沼から約20km走り、陸前高田市の「一本松茶屋」を目指した。凄く広い駐車場に車を停め、復興工事現場の中を歩いて約10分のところに奇跡の一本松があった。



広田湾に面したこの辺りは、高田松原と称し約7万本の松の木が茂り、日本百景にも指定されていた景勝地であった。

津波の直撃を受けほとんどの松の木がなぎ倒され壊滅した。松原の西端近くに立っていた一本の松の木が津波に耐えて立ったままの状態が残った。「奇跡の一本松」と呼ばれるようになった。震災後、根が腐り枯れ死となったがモニュメントとして複製され元の場所に再び立てられている。一本松の近くには壊れた建物がそのままの状態に残されていた。「奇跡の一本松」と同様、震災と復興の象徴として保存伝承されて行くものと思われる。松原のあった所には 海拔 3.0m と 12.5m、全長 2km に亘る巨大な防潮堤が二段構えで造成されていた。広田湾の海は全く望めなくなってしまった。防潮堤は現在工事中であり立入禁止であった。二つの防潮堤の間には松林公園が、海岸には白い砂浜が再整備される計画の様である。

## 碓石海岸 民宿「海楽荘」

「奇跡の一本松」を見学し、岩手県大船渡市末崎半島碓石海岸にある民宿「海楽荘」に向かう。カーナビが指示する道案内と大船渡末崎が故郷である長谷川さんとの道案内が所々で異なるケース(笑)があったが被災地の被害状況を見ながら、また、三陸のリアス海岸の岩と海の景色を見ながら、無事に宿に着く事が出来た。宿には、震災工事関係者の方が多く宿泊していた。民宿には2泊し、温泉と新鮮な海鮮料理を堪能した。

## 大船渡末崎(まつき)半島細浦湾

2日目、朝7:45に宿を出発、あいにく小雨混じりのどんよりした曇り空であった。長谷川さんが通った中学校の裏に設置された震災被災者用の仮設住宅



を見に出かけた。現在、仮設住宅は使用されていなくひっそりと佇んでいた。仮設住宅区域内は「立入禁止」措置

がとられており、金網フェンス越しの見学となった。業者の方が解体撤去の作業のため出入りしていた。

仮設住宅を目にして、6年前、震災に遭われた多くの被災者の方が不自由な環境の中で、心に傷を負って、ここで生活されていたのだな〜と、あらためて、自然災害、地震、巨大津波の怖さを実感したのである。



長谷川さんが生まれ育った大船渡末崎細浦湾にも約 10m 近くの津波が押し寄せた。長源寺というお寺からの風景であるが「津波到達の地」の碑が

立っている。眼下にあった多くの民家は津波で流され家一軒見当たらず空け地となっている。下に見える道路は JR 大船渡線の電車が走っていた所である。津波により細浦の駅舎と線路は流失した。現在、舗装されたバス専用道路となっている。三陸鉄道大船渡線の盛駅〜気仙沼駅間が JR バス運行(BRT)による復旧となっている。BRT:バス高速輸送システム *Bus Rapid Transit*

### 東日本大震災を語る・高橋亨さん



長谷川さんの従兄にあたる高橋亨さん宅を訪ね東日本大震災の話聞く事ができた。今年 95 歳になられるが背筋がピンとしており話し方も知的でインテリジェンスが感じられた。旧制早稲田大学を卒業され、長谷川さん等の恩師でもある。現在においても地元の名士との事である。6年前の震災では、息子さんである岩手県大船渡署高橋俊一警視が津波の犠牲となり亡くなっている。高橋俊一警視(殉職後警視長)は陸前高田市の幹部交番の所長で、津波発生時、住民の避難誘導に当たっていた部下に避難するよう指示したが、自らは交番に残り無線で避難誘導指示を続け津波の犠牲となった。遺体は1ヶ月後に自衛隊により同市沖で見つかった。発見された場所は夢の中に息子さんが現われ案内してくれた・・・と、高橋亨さんは悲痛な思いで語ってくれた。今回の震災で、陸前高田市の警察官4名が殉職されたとの事であった。

### 大船渡市魚市場



細浦の漁港の復興状況を見学し、大船渡湾に沿った道路(浜磯街道)をゆっくり走り大船渡魚市場に向かった。大船渡湾にも 10m を超える大津波が押し寄せ、湾沿岸の漁業関連施設、中心市街が大きな被害を受けた。6年経過し、がれき等はすべて撤去され街はきれいであった。地形によるものか陸前高田市に比べ湾沿岸には新しい建物が多く建っていた。

大船渡市魚市場も近代的な巨大な施設に建て替えられていた。市場施設内には震災記録の展示室、見学デッキ、レストラン等が有り観光要素を含んだ施設であった。横浜南ロータリークラブの方々が視察に来られていた。

### 三陸鉄道大船渡線(JR バス運行 BRT)

東日本大震災で大船渡線は壊滅的な被害を受けた。気仙沼〜盛間の鉄道の廃止がほぼ決まり、現在は JR バス運行(BRT)となっている。大船渡駅と盛駅を訪ねた。大船渡駅周辺には大きな建物が建築中であり活気があった。長谷川さんは大船渡盛高校の出身である。



### JR 大船渡駅

震災前は立派な駅舎があったと思われるが、今は簡単なバス専用駅となっていた。



### JR 盛駅

大船渡線(BRT)盛駅〜気仙沼駅の起点であり、三陸鉄道南リアス線(電車)盛駅〜釜石駅の起点でもある。駅員さんに震災時の話を聞く事ができた。

### 碓石海岸での同窓会 13:00〜

末崎町に居住する長谷川さんの4人の旧友(同期生)との同窓会が碓石海岸の食事処「岬」で開かれ、同席する事が出来た。楽しく食事し、お酒を酌み交わし、歓談した。6年前の震災時、押し寄せて来る津波を4人の方皆さんが直に体験されているという話、自分の家が津波により流出した話、自分の妻が逃げ遅れ波に飲まれたが一瞬の幸運で手をさしのべて助ける事が出来た話など、貴重な体験談を聞く事ができた。たんと話して頂いたが、一生、心の傷として深く残る出来事であったと理解している。歓談を終え、わらび畑を栽培している方のご厚意で「わらび採り」を体験する事ができた。

### 碓石海岸:穴通磯

3日目、青い空と青い海がまぶしい朝を迎えた。碓石海岸は迫力ある海岸線が魅力で、奇岩、巨岩、断崖絶壁など観光スポットがたくさんある。限られた時間であったが雷岩、乱曝谷、穴通磯等を見学する事が出来た。今回の旅では、駅レンタカーを利用したが有効な移動手段であったと思う。



・・・訪ねることが、東日本大震災復興に協力!ぜひ・・・